日本経営倫理学会 学会員の皆様

第 33 回日本経営倫理学会研究発表大会
開催報告及び御礼

拝啓　盛夏の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは、第 33 回日本経営倫理学会研究発表大会（令和７年７月１９日～２０日：慶應義塾大学日吉キャンパス・来往舎）にご参加いただき、誠にありがとうございました。実行委員長を務めさせていただきました劉慶紅と申します。

おかげさまをもちまして、今回の大会は、日本経営倫理学会研究発表大会のこの 10 数年の間において最多の 140 名を超える皆様にご参加いただき、大変意義深い多彩な議論が実現したことを、ありがたく思っております。

本学会創始者の故水谷雅一先生は、倫理の必要性および倫理基準が企業経営に与える影響等をご研究されておられましたが、研究におけるその視座は、本学会の原点であり、今もなおそれは、本学会の根幹を成していると考えます。そのため、今回の統一論題シンポジウムでは、企業の経営哲学、企業の倫理基準について取り上げ、本学会の原点・根幹を確認する機会としたいと考えて企画した次第です。

その結果として、過去最多の皆様がご参加くださったことが、実行委員会をお預かりした者として、何よりも嬉しく、今回の第 33 回全国大会は、本学会の原点に立ち返る重要な節目となり、水谷先生も喜んでくださっているのではないかと感じております。

７月１９日の統一論題シンポジウムは、「経営倫理基準としての「利他」の可能性－東洋の経営倫理思想の系譜と稲盛和夫経営哲学」というテーマで、慶應義塾大学ビジネススクールの中村洋研究科長の挨拶に始まり、京セラ執行役員の橋浦佳代氏、東京大学教授の中島隆博氏、一橋大学教授の田中一弘氏、明治大学特任教授の高巖氏の 4 名が登壇され、現代日本の経営者にして経営思想家である、故稲盛和夫氏の「利他」の精神について、それぞれのご専門の立場から発表していただきました。「利他」の精神性について、大変に示唆に富む内容で、その後のパネルディスカッションに至るまで、私も皆様とともに大変興味深く拝聴させていただきました。今回、登壇された橋浦氏はじめ、富士通やパナソニック、サンスターなど、多くの企業から実務家の皆様にご参加を賜りましたことが、本学会の研究発表大会が、ビジネスの現場にとっても、参考となる実践的な議論が展開される場であることの証明となっていたのではないかと思っております。大会終了後、参加者全員での集合写真の撮影もあり、本学会を通じた会員相互のつながりを強く感じる機会となった点も、今回の成果ではないかと感じております。

大会終了後の集合写真

例年の研究発表大会もそうだと思いますが、今回も実施までには準備のプロセスで、実行委員の皆様には、皆様、お忙しい中、種々ご尽力をいただきました。懇親会の際に、実行委員会の皆さまをご紹介させていただきましたが、委員の皆様の献身的なご尽力に、私も恥ずかしながら、感極まり、思わず涙があふれてしまいました。

これほど素晴らしい大会を開催できたのは、ひとえに委員の皆様やご参加いただいた皆さまのご尽力ご協力の賜物です。実行委員長として、改めて衷心より感謝申し上げます。実行委員長を退任し、これから私は再び自らの研究に邁進したく存じます。特に日本やアジアの英知を欧米など海外に伝えるべく在外研究の孤独な旅に出発します。それは自らの無知を思い知る旅でもあります。その成果は、必ずや本学会に持ち帰りたいと思います。旅立つにあたり、唐の詩人、李白の詩から言葉を引用して、ご挨拶に替えたいと存じます。

長風破浪会有時，直挂雲帆済滄海
（いつか必ず順風を得て大海を渡ることができる。
大きな帆を雲のように掲げ、広い海を越えてゆこう。）

今後も、学会の発展のため、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
末筆ながら会員の皆様のご活躍ご健勝をご祈念申し上げます。

敬具

令和７年８月吉日

第 33 回日本経営倫理学会研究発表大会 実行委員長
慶應義塾大学経営管理研究科教授　劉 慶紅